

「過去の記憶」(50分)

対象/中学生・高校生

1. プログラムの趣旨

青少年赤十字の実践目標の中には『健康・安全』、また態度目標には『気づき・考え・実行する』がある。これらの目標のもと、「防災教育」を通して様々な災害から青少年の健康と安全を自らが守る方法を学び、さらにはそこから家族や地域住民とともに防災意識を高め、広めることで『人間のいのちと健康、尊厳を守る』ことを目的とする。そして子どもたちは『未来をつくる希望』をもつことが大切だと考える。どのような未来をつくるのか、ある高校生の作文に込められた思いを知り、また友人たちとその考えを共有し、未来について話し合うことで、あらためて『いのち』をみつめ、『生き抜く力』を育てる教材にしたいと考え、設定した。

2. ねらい

私たちはどのような未来をつくっていくのだろうか。ある高校生の作文を読み、考え、想像し、思いやり、そしてグループで話し合う。短い作文に込められた思いを読み取り、そして大変辛い体験からどのような記憶をきちんと伝えていくことが、未来につながるのかを考え、表現することを目標とする。

3. 展開

段階	学習内容	教師の支援・指導上の留意点
導入 (5分)	①考えてみよう。作文に込められた思いとは ……190秒の黙想。 ・長い時間か短い時間か?何の時間だったか?を 考える。	・目を閉じて静かにしているよう指示する。 (机に伏せても構わない。自由に、でも静かに) ・何の時間だと思うかを答えさせてもよい。 ・この時間が東日本大震災の地震の揺れの時間であったことを解説する。
展開 (35分)	②佐々木君の作文を読んで考えよう。 ～作文に込められた思いとは?～ ・作文を見て考える→プリントに記入(個人活動) 佐々木君の『悔しさ』とはどのような悔しさだろう。 佐々木君の「悲しさ」を想像してみよう。 あなたは作文を読んでどんなことを考えましたか? ③話し合ってみよう。 佐々木君の言う「絶やさない」過去の記憶とは? 震災のどのような記憶を未来のために残していくべきか具体的に書き出してみよう。 あなたは話し合ってどのようなことを考えましたか?	・資料の佐々木君の住んでいた大槌町の写真を見て震災前と震災後と突然日常が奪われたことを想像できるように促す。「もし自分だったら」と考えるなどアドバイスする。 ・話し合いは順番に、または話しやすいところからでよいので自分の考えを話すように支援する。 ・「絶やさない」とは「残していくべき記憶」であるなど言い換え、話し合いが円滑にすすむよう助言する。 ・辛い記憶を残していくことも未来につながることに気づかせる。
まとめ (10分)	④佐々木君へのメッセージを書こう。	・時間があれば発表させてもよい。

作文:「過去の記憶」 岩手県立大槌高等学校二年 一佐々木 洋祐一

出典:平成23年度 わたしたちが今、思うこと～大槌の子どもたちの思いをつなぐ～ 「心の温もり作文」<第24号>

*注:大槌の「槌」の正式な漢字表記は、しんにょうの点が二つになります。

三月十一日の震災で、私はたくさん大切な人、物、場所を失い、そして、悲しさと何も出来なかった悔しさだけが残りました。

あの日から月日は流れ、町の復興も進み、前と同じような生活に戻りました。でも、あの時の思いや悲しさは忘れることができません。

でも、失った人や物、場所の記憶は少しずつ薄れていってしまいます。前へ進むことも大事ですが、過去の記憶を絶やさないようにしていきたいです。

大槌町 震災前



大槌町 震災後

